

加藤 祐三 名誉会員



加藤祐三名誉会員は、1939年東京に生まれ、1961年東北大学理学部地学科地学第二（岩鉱教室）を卒業された。1965年に同大学理学研究科修士課程を修了し、1968年には博士課程を修了し理学博士の学位を取得された。その後すぐに東北大学理学部の助手に就任された。1979年には琉球大学理学部海洋学科に助教授として就任された。その後、1990年同大学理学部の教授へ昇任された。1996年～2000年は琉球大学理学部長を務めている。2004年3月に琉球大学を定年退職し、同年には長年の研究・教育の業績により琉球大学名誉教授となっている。現在も沖縄大学の客員教授に従事している。

東北大学岩鉱教室時代は、おもに北上山地の花崗岩類の岩石学的研究に従事した。また、地質調査所の代表的な地球化学標準試料の分析も行い、標準試料の地球化学的データベースの構築にも貢献している。

琉球大学へ赴任してからは、地の利を生かし、琉球弧の地質学、岩石鉱物学的な研究を精力的に推進した。主に火成岩に着目し、卒論・修論の研究テーマとして琉球弧に分布する火成岩類の詳細な地質調査と岩石学的研究、年代測定を行った。特に渡名喜島、石垣島、徳之島、奄美大島、久米島、硫黄島などの島々の地質と岩石の研究に貢献した。また、沖縄トラフの活動的海底熱水域で発見した材木状軽石を命名し、その生成機構も解明している。

津波石の研究も特筆される。加藤名誉会員は、主に南琉球弧の島々の海岸沿いに分布している津波石様のサンゴ礁岩塊について、あられ石が方解石へ転移することを利用した鉱物学的視点を導入して、津波起源の津波石を明確に区別し、琉球弧での歴史津波の遡上高や規模などを高精度で推定し、地震津波の防災学的研究に貢献した。

さらに、火山豆石に関する業績も顕著である。多孔質で脆い地質試料の効率的な薄片作成の技術開発を行いながら、琉球弧のみならず日本各地から、火山灰層や火砕流堆積物などの多様な産状を呈する火山豆石の内部構造を詳細に観察し、その形成機構の解明も含めて成因的分類を試みた。

加藤名誉会員は111編の研究論文に加えて、著作の面でも顕著な業績を上げている。なかでも1985年に出版された「奄美・沖縄岩石鉱物図鑑」は、琉球弧の岩石・鉱物について初めて網羅したものである。得意とするカメラワークが活かされ、露頭写真と岩石写真、分布図が一体となった画期的な普及書として今なお再版を望む声が多い。編著の「ニライカナイの島じま-沖縄の自然はいま」に続き、2009年に出版された「軽石-海底火山からのメッセージ」は、氏のこれまでの研究成果を分かりやすい軽快なタッチで表現しており、優れた一般向け普及書として沖縄タイムス出版文化賞を受賞し、この分野の教育や普及に貢献してきた。

以上のように、長年にわたる岩石鉱物学、地域地質、火山学、防災科学に関する多大な研究業績、幅広い教育活動・普及活動への顕著な貢献は渡邊萬次郎賞の受賞者としてふさわしいものと判断されるので、加藤祐三名誉会員を渡邊萬次郎賞に推薦するものである。

加藤 祐三 名誉会員の略歴

- 1939年2月16日 東京都生まれ
- 1961年 3月 東北大学理学部地学科地学第二 卒業
- 1965年 3月 東北大学大学院理学研究科修士課程 修了
- 1968年 3月 東北大学大学院理学研究科博士課程 修了(理学博士)
- 1968年 4月 東北大学理学部助手
- 1979年 9月 琉球大学理学部助教授
- 1990年 5月 琉球大学理学部教授
- 2004年 3月 琉球大学理学部 定年退官
- 2004年 4月 琉球大学名誉教授
- 2004年 4月 沖縄大学客員教授(現在に至る)

非常勤講師歴

東北大学理学部、琉球大学理学部、沖縄大学

学会・社会活動に関する履歴

1988年～2001年 日本岩石鉱物鉱床学会評議委員
1990年～1992年 文部省学術審議会専門委員
1992年～1994年 科学技術庁科学技術会議専門委員
1994年～1997年 日本学術会議鉱物学研究連絡委員会委員
2017年 日本鉱物科学会名誉会員

以上